

水辺の植物を知ろう

水辺の植物は、自生する環境によって、

沈水植物と浮遊植物、浮葉植物、抽水植物、湿生植物の5つのグループに分かれます。

それぞれの特徴を知って、

水辺の植物を上手にウォーターガーデニングに取り入れましょう。



水辺の植物とは、水中に根を漂わせる植物と、水中に根を張る植物、そして湿地に自生する植物のことをさします。また、一度は陸上生活に適応しながら、再び水中生活に戻っていった種子植物やシダ植物も水辺の植物といえます。水面に花を出すなど、陸上で生活した面影を残しているのが特徴です。水生植物は性質や自生地などによって、沈水植物、浮遊植物、浮葉植物、抽水植物の4つのグループに分類されます。これら4つに加え、岸辺や山野に広がる湿原に生える湿生植物の仲間を含んだ5つのグループが水辺の植物です。

それぞれの生息環境によって、そこに自生する植物はバラエティに富んでいます。まずは、各グループの性質と特徴についてまとめておきましょう。

●沈水植物●

根が水底にあり、茎葉が水中に沈んでいる植物のことをさします。水深が深い場所では完全に水草になっていて、通常

は水面や空中に葉を広げることはありません。ただし、花を咲かせるときは水面に出てくるものがほとんどです。

代表的なものはカボンバやマツモなどで、どちらも金魚藻と呼ばれることがあります。いずれも水槽内で育成するのに適しています。

●浮遊植物●

根は水中にあるものの水底に下ろさず、水面を漂っています。この仲間にはタヌキモ、ムジナモなどの食虫植物と、ホテイアオイ、ウォーターレタスなどの浮草があります。

このうち、ウォーターガーデニングに適しているのが、夏が近づくと園芸ショップや熱帯魚ショップでよく見かける浮草。浮き袋や多孔質の厚い葉をもつていて、自然下でも流れのままに水面を漂っています。

浮草は丈夫で、強い光さえ当たっていれば栽培は容易。繁殖力が強く、夏になるとかなり増殖します。やや大きめの睡

蓮鉢に浮かべると夏の清涼感を演出することができます。

●浮葉植物●

水底に根があり、茎葉の一部や花を水面に浮かせます。種子から芽が出た幼い時期は沈水葉をつけ、茎が伸びて水面に達すると水面に浮葉をつけます。葉形を変化させて、深い場所でもうまく生活できるようになったものが浮葉植物の特徴といえるでしょう。その代表種はオニバスやヒルムシロで、葉形が水中と水面ではかなり異なります。

また、土中に地下茎や球根をもつて、そこに養分を蓄えて冬や乾燥期を乗り切る種類もあります。スイレンやハスがこの代表的な種類。春になると地下茎から茎が生長して、夏場にきれいな花を水面に咲かせます。なお、ハスは抽水植物に分類されることもあります。

●抽水植物●

岸近くの水深の浅い場所にあり、根元